

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 10 月 3 日	
所属部局・職	(理学部・生物系 4 回生)
氏名	瀧山 拓哉

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
笹ヶ峰 京大ヒュッテ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
PWS 笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 9 月 29 日 ~ 平成 28 年 10 月 2 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習の目的は、笹ヶ峰において火打山登頂やロープワーク講習などの説明を通じて、フィールドワークを行うための基礎を学ぶことであった。
スケジュールは 9/29 到着 ヒュッテ周辺散策 9/30 涸沢 ビバーク講習 ロープワーク講習 10/1 火打山登山 10/2 山スキー講習 ヒュッテ出発 であった。
自身にとって 3 度目の笹ヶ峰京大ヒュッテ訪問になったが、以前の 2 回はいずれも火打山に登頂しておらず、是非登頂したいという念願を持っての訪問であった。 実習中は幸いにも好天に恵まれ、ニホンザル、タヌキなどの野生動物にも遭遇することができ、非常に有意義な 4 日間であった。
第一日 (9/29) 到着後すぐに、杉山先生からヒュッテの使い方などのガイダンスを受けた後、ヒュッテ周辺の散策を行った。ここで、タヌキに出会うことができた。
第二日 (9/30) 涸沢へトレッキングに出かけ、地図読みを教わった。好天であったが、数日前の雨の影響で涸沢に水が多く流れていた。午後からのビバーク・ロープワーク講習で、ツェルトやロープワークの基礎を教わった。この途中、ニホンザルの集団がヒュッテ周辺に現れた。
第三日 (10/1) 火打山登頂 登山時は小雨の降るときもあったが、幸いにも大雨になることもなく、快適な登山であった。山頂では曇り空で、景色を見ることはかなわなかったが、下山時には晴れる時間もあり、天狗の庭などの景色を楽しむこともできた。
第四日 (10/2) ヒュッテの清掃後、山スキーの基本説明を受け、京大ヒュッテを出発した。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

火打登山時に高谷池ヒュッテで山本先生が「山は逃げる」とおっしゃったのが非常に印象的であった。次のチャンスがあると思って目の前のチャンスをつかまないと、別の事情で次のチャンスをつかめないことも多い。貪欲に様々なことに挑戦していく姿勢が大切なのだと思う。また、涸沢に水が流れており、以前訪れたときとは違った涸沢の姿を見ることができてよかった。自然は雄大で、同じ景色の山に2度上ることもできず、そういう意味でも「山は逃げる」のだろうと感じた。無雪期3回目の京大ヒュッテの訪問で、火打山登頂以外に真新しいことは多くはないと思っていたが、周囲の景色や動植物の様子など、その予想を大きく裏切られ、非常に有意義な実習だった。また、調理等にも慣れてきたこともあり、以前の実習より積極的に参加出来たり、ロープワークの一部を覚えていたり、自分の成長を実感することもできた。まだ訪れたことがない積雪期の笹ヶ峰を訪れてみたいというのはもちろん、無雪期にもまた訪問したい。



図1：ヒュッテ周辺散策時 宇棚の清水



図2：山独特の雲、山によって空気が切り裂かれている

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 3：ピパーク講習



図 4：火打山下山時、晴れ間に見えた天狗の庭周辺

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援を実習中指導していただきました，松沢先生，幸島先生，杉山先生，滝澤先生，山本先生にこの場をお借りして御礼申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 10 月 31 日	
所属部局・職	理学部 3 回
氏 名	新宅 和憲
1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
新潟県妙高市妙高高原	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
笹ヶ峰実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 28 年 9 月 29 日 ~ 平成 28 年 10 月 2 日 (4 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)	
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の実習では、笹ヶ峰や火打山など妙高高原の自然に触れながら、フィールドワークにおけるサバイバル技術を学ぶ目的の下以下のような日程で行われた。</p> <p>1 日目 集合、ガイダンス、ヒュッテ周辺の散策 2 日目 涸沢、ロープワーク講習、登山コースの確認 3 日目 火打山登山、ビバーク講習、スキー講習 4 日目 掃除、解散</p> <p>初日は、鉄道にて妙高高原駅に到着後昼食をとり、バスにて笹ヶ峰ヒュッテに到着。一通りヒュッテの設備についての説明を受けた。その後、周辺設備の説明を兼ねた周辺探索を行った。まず、ヒュッテの取水口を確認した。取水口は現在ミズナラ・ダケカンバ混合林の中にあるが、建造当初は数十年前の草原にあったという話を聞いた。取水口で沢から水を引き、ニカ所の浄化槽で水をためて泥を沈め、濾過を行い生活用水としている。しかし、大雨による増水時は、水が濁ることから取水やオーバーフローのバルブを操作することが必要となる。また、生ゴミコンポストについての説明を受けた。ヒュッテで出た生ゴミはすべてこのコンポストを使って処理している。次にヒュッテ周辺の危険箇所として、スズメバチの巣を確認した。スズメバチの巣の位置を知らせる方法として、ヒュッテからの方角と木の種名を述べることで、メンバーとの情報共有を行うことができると学んだ。ヒュッテの周辺は現在森林に囲まれているが、この地域は前近代までは炭焼きの職人がわずかに住み着いているほどであったが、明治後期に牧場が開かれ草原となった。これが今に残る最古の牧場となっている。しかし、昭和中期以降徐々に牧場は規模を小さくし、現在では、今でも牧場となっている場所を除き、多くが森林に戻り二次林を形成している。また、ヒュッテから少し歩いたところに宇棚の清水と呼ばれるわき水があり、平成の水 100 選に選ばれている。</p> <p>夜は、まず翌日上の涸沢のルートを地図で確認した。次にスライドショーで笹ヶ峰の動植物と冬期の様子を見た。笹ヶ峰はミズナラとダケカンバが見られる冷温帯林であり、目撃頻度は高くないが、サルやアナグマなどのほ乳類が生息している。冬期の笹ヶ峰では積雪が数メートルあり、吹きだまりとなる場所では雪がヒュッテの屋根まで積もる。移動は山スキーやワカンを用い、2 階から出入りするようになる。</p> <p>二日目は午前中涸沢を上った。涸沢は、普段水は涸れているが今回は雨が降り続いた後であり、水が流れていた。涸沢の途中には岩に引っかかった枯れ草や木の枝・幹が引っかかっており、最も増水した時の水位がわかるようになっていた。また、水があったため岩が滑りやすくなっており、足下が滑りやすくなっていった。また、浮き石にも注意する必要がある。また、下りにおいて上ってきた道に戻る練習を行った。上る際に道標となる木や地形を把握し記憶することが重要であると学んだ。また、登りと下りで見える景色が異なるので、たびたび後ろを振り向く必要性も実感した。</p> <p>ヒュッテに帰ってきた後、ビバーク講習があった。ビバーク講習では、ツェルトの使い方を学んだ。簡易テントとして利用するほか、強風の中で話し合いを行うときの覆いや雨よけのポンチョと防寒着、結露による水の確保など、様々な使い方があると学んだ。</p> <p>午後はロープワーク講習を受けた。今回ダブルエイトノットとダブルフィッシャーマンズジョイント、ロープによるザイルへの持ち手作り、インクノットを学んだ。ダブルエイトノットは、ハーネスをロープにくくりつけるときなどに使い、非常に強固な結び方である。ダブルフィッシャーマンズジョイントは 2</p>	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

本のロープをつなぎ合わせる非常に強固な結び方であり、またそれで作ったロープの輪をザイルにくくりつけて上るための足場とする方法を学んだ。また、インクノットは簡単でありながらロープのどちらの端から引っ張られても緩まない結び方であり、新聞紙を束ねるのにも役立つと学んだ。ここまで教わったところで、ヒュッテの近くにニホンザルの群れが現れたため、その観察を行った。夕食後は、翌日登山予定の火打山への登山ルートの確認をおこなった。

三日目は火打山に登った。登山開始時から雨が降ったり止んだりを繰り返していた。できる限り汗をかかないように気をつけてはいたが、雨具のため少し蒸れてかなり汗をかいてしまった。そのため、山頂に近づき気温が下がると、少し肌寒く感じた。行程は笹ヶ峰ヒュッテを出て谷に向かい黒沢橋まで向かった。雨はやや強くなったり弱くなったりをしながら断続的に降っていた。ぬかるみも所々にあった。黒沢橋で水の補給も行った後、尾根に向かって進んだ。途中十二曲と呼ばれる曲道の続く場所を越えて尾根に入り、さらに岩場もある急峻な斜面を登り富士見平へと至った。富士見平に着く頃には雨はほとんど止んでいたが、濃霧が発生していた。富士見平からは地図上ではそこまで起伏がないように見えるが、実際はある程度の起伏が続いた。高谷池ヒュッテに到着した頃には雨は上がっていたが、濃霧のため周辺の展望は全くなかった。到着後周辺で散策して下山する組と火打山山頂を目指す組に分かれ、山頂組に入った。山頂への道中も霧は濃く、足下はぬかるみが多かった。植生はオオシラビソからダケカンバ、ハイマツと変遷していった。頂上で写真撮影を行ったが、残念ながら濃霧のため全く周囲の景色を見ることができなかった。しかし、下山中天狗の庭と呼ばれる場所でわずかな時間であったが霧が晴れ天狗の庭を見ることができ、高谷池でも少し霧が晴れ、周囲の景色を見ることができた。

四日目は朝食後掃除を行い、集合写真を撮った後帰路についた。

また、スキーについて、簡単な着用手順や山スキーの仕組みについて教わった。山スキーはゲレンデスキーと異なり、平地滑走や登坂能力が求められるため、かかとの固定解除ができるようになっており、平地ではかかどが浮くようにし、下りではかかどが固定できるようにし、上り坂ではかかとの下につかえを入れて登りやすくもできるようになっている。また、ブーツもかかとの固定解除ができ、滑降時に固定と歩行時に解除することで滑りやすく歩きやすくなっている。さらに、ストックは伸び縮みさせることができるようになっている。また、板の裏にシールと呼ばれる毛羽だった布をつけることにより上り坂で摩擦を得ることができ、斜面を楽に登れるようになっている。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ヒュッテの近くにある牧場。奥に見える森もかつては牧草地であった。



涸沢の途中に引っかかっている枝。この高さまで水が上がっていたことがわかる。



火打山山頂。残念ながら濃霧のため全く景色は望めず。



下山中に見た天狗の庭。わずかな間だが霧が晴れ、この景色を見ることができた。

6. その他 (特記事項など)

今回の実習はWPSリーディングプログラムの支援を受けて無事終えることができました。また、松沢先生、幸島先生、杉山先生、山本様、滝沢先生、市野様には非常にお世話になりました。感謝申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 10 月 10 日

所属部局・職	総合人間学部 2 回生
氏名	横山実玖歩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高高原、京都大学笹ヶ峰ヒュッテ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 9 月 29 日 ~ 平成 28 年 10 月 2 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学松沢哲郎先生、幸島司郎先生、杉山茂先生 (静岡大学)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、ヒュッテでの生活や登山、各講習を通して、フィールドワークの基礎について学ぶことが目的であった。
日程 9 月 29 日 笹ヶ峰ヒュッテ到着、実習ガイダンス、周辺の散策 9 月 30 日 涸沢トレッキング、ロープ講習、ビバーク講習、登山コース確認 10 月 1 日 火打山登山 10 月 2 日 山スキー講習、清掃、解散
1 日目 朝 6 時半に家を出て、東海道新幹線、特急しなの、しなの鉄道、バスを乗り継いで、14 時半に笹ヶ峰ヒュッテに到着した。ガイダンスを受けたのち、ヒュッテ周辺の散策を行った。散策の道中ではサルナシ、キハダ、イグチ、ダケカンバなどの様々な植物やキノコを観察し、杉山先生の解説を聞くことができた。サルナシを食べたのは初めてだったが、さわやかな酸味と甘みを感じられた。途中で野生のキツネを見ることができた。遠くからだったが、その姿や素早い動きに感動した。また、ヒュッテで使用している水の水源を見に行った。ヒュッテ開設当時の山岳部の方が作られたと聞き驚いた。夕食は自分たちで手作りした。地元で採れた新鮮な素材で作った料理は本当においしかった。
2 日目 6 時に起床して、朝食を作ることから 2 日目が始まった。この日は朝 8 時半から涸沢トレッキングを行なった。植物の解説を聞きながら歩を進め、次第に山の中に入っていった。終盤は急峻な岩場になっている涸沢を歩いた。豪雨の後だったために、普段水がないところに水が流れており、足元は非常に不安定であった。そのような環境の中、安全を確保しながら登る方法を教わった。頂上から見た景色は非常に美しかった。危険な岩場を慎重に登った経験は、次の日の登山の際にも非常に役立った。また登ってきたコースを覚えておき、尾根との距離感や行きを頼りに下山する体験も初めてだった。フィールドワークの際にはこれらの経験が生かされると思う。 午後のロープ講習、ビバーク講習では、数種類のロープの結び方、ビバークの活用について教わった。ビバークを見たのは初めてだったが、風雨よけや担架、防寒具など本当にたくさんの用途に使うことができると知り驚いた。これらの技術を身につけておくことは、調査地でのトラブルに迅速に対応し、命を守ることに繋がると思われる。
3 日目 朝 4 時に起床して、6 時半に火打山登山に出発した。人生で初めての本格的な登山であり、前の晩は緊張してあまり眠れなかった。朝から小雨が降っており、景色は見え、道は終始ぬかるんでいた。昨日教わった安全な登り方を心がけて登った。10 時に高谷池ヒュッテで休憩したのち、またぬかるみの中を登り続

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

け、到着したのは12時であった。残念ながら景色は見えなかったが、登り切ったという達成感は大きかった。下山途中で霧が晴れ、天狗の庭を一望することができた。あまりの絶景にそれまでの疲れが吹き飛んだ。その後も登り続け、17時半にヒュッテに到着した。脚や腰は痛く、身体は悲鳴を上げていたが、無事に帰って来られたことが何よりも嬉しかった。一人では12時間近い道のりを歩きとおすことはできなかったと思う。共に励まし合って登った皆さんに感謝したい。その日の夕食の鍋は本当においしかった。

4日目

朝食の後、山スキーについての解説を聞いた。山スキーは通常のスキーとは違って、靴の踵が取れるようになっていたり、スキンと呼ばれる皮を取り付けて一方向にしか滑らないようにしたりと、様々な特徴があると知った。ぜひ3月の講習にも参加して、スキーを体験してみたいと思った。その後は全員で清掃を行い、解散、帰宅した。

初めての経験をたくさんさせていただき、今夏最後の最高の思い出になった。



図2 サルナシ



図1 1日目の夕食



図3 濁沢 山頂からの景色



図4 火打山山頂



図5 天狗の庭の景色



図6 ヒュッテからの景色

6. その他 (特記事項など)

PWSの支援を受けてこの実習に参加させていただくことができました。また、実習中は杉山先生に大変お世話になりました。深くお礼申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 10 月 22 日	
所属部局・職	理学部 1 回 (学部・野生動物研究センター・博士課程学生)
氏名	山崎 皓之

1. 派遣国・場所
新潟県妙高市
2. 研究課題名
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間
平成 28 年 9 月 29 日 ~ 平成 28 年 10 月 2 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者
京都大学 PWS 松沢哲郎先生、幸島司郎先生、杉山茂先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果
京大ヒュッテを拠点に野外を散策しながらフィールドワークに必要なサバイバル技術を学ぶことを目的に、以下のように実習を行った。
日程 9/29 午前 移動 (京都→笹ヶ峰) 午後 実習ガイダンス、ヒュッテ周辺散策 9/30 午前 涸沢への踏査 午後 ビバーク講習、ロープワーク、野生ニホンザル観察、 10/1 火打山登山 10/2 午前 山スキー講習 午後 移動 (笹ヶ峰→京都)
一日目 最初に実習について簡単にガイダンスをしていただき、その後ヒュッテ周辺を散策した。散策では、目にした様々な動植物の名前や特徴を教えていただいた。
二日目 まず涸沢踏査に行った。沢に行きつくまでは、人工的な道や目印等の無い所を通り、特徴的な地形や樹木を帰るときの目印にできるように覚えながら進んだ。涸沢を上る際は、安全に進む方法を指導していただきながら登った。岩の濡れ方から増水時の水位を見積もったり、沢付近の樹木のなぎ倒され方から昨冬起こったという雪崩の様子を推測したりできることを教わった。帰りは来た時に覚えた目印を手掛かりに下り、出発地点まで戻ることができた。 ヒュッテに戻ってからは、基本的なツェルトの扱い方とロープワークを学んだ。その途中にニホンザルの群れが現れたので、ニホンザル観察も行った。 フィールドに出る際は、その瞬間に目にする情報だけでなく、そこから過去に何が起こったのかやこれから何が起こりうるのかを推測することも重要であることを学び、フィールドに関する幅広い知識と観察力を身につける必要性を強く感じた。
三日目 火打山登山を行った。朝は激しくはないものの雨が降っており、木道や岩場は滑りやすく、地面はぬかるんでいたため非常に歩きにくかった。上りの間、ほぼ常に霧が出ている状態で視界が悪かった。頂上に着いても依然としてガスが出たまま、山頂からの眺めを観ることができず残念に思った。しかし、下りたいときにようやく晴れて天狗の庭などの美しい景色をながめることができた。 これまでも登山をした経験は何度かあるが、今回のように事前に難所や休憩のポイントなどを地形図で確認して計画がしっかり頭に入った状態で登山をしたのは初めてである。そのおかげで、初めて足を踏み入れる山であっても、自分が今どういう所を歩いているのかというイメージや残りの距離と体力の計算

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

がしやすいと感じた。

4 日目

山スキーの道具を実際に見せていただきながら、状況に応じたスキーの扱い方を解説していただいた。

写真：湊沢からの眺め



6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援を受けて参加しました。今回ご指導していただいた杉山先生にお礼申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 10 月 27 日	
所属部局・職	理学部理学科一回生
氏名	山村沙南

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高高原 笹ヶ峰ヒュッテ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 9 月 29 日 ~ 平成 28 年 10 月 2 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学が開催する笹ヶ峰実習に参加し、9 月 29 日から 10 月 2 日にかけて、登山やサバイバル技術の基礎や、高原の動植物について学んだ。
9 月 29 日 妙高高原駅に集合→バスで笹ヶ峰ヒュッテに→水源→笹ヶ峰神社付近の探索 9 月 30 日 涸沢を登る→テント張り・ロープワーク→ニホンザル 10 月 1 日 火打山登山 10 月 2 日 帰宅
29 日
正午ごろ妙高高原に到着。近所の食堂で腹ごしらえをしてバスに乗り、笹ヶ峰ヒュッテに向かう。ヒュッテに着き、部屋やシーツの使い方などのガイダンスを受けた後、北方の水源に歩いて向かう。ウリハダカエデやシラカバが多く生えていた。来る前の大雨の影響で泥が溜まっていた。ヒュッテに帰りコーヒーを淹れてもらったのち、笹ヶ峰神社方面に行く。ツタウルシが鮮やかに紅葉していた。サルナシやヤマブドウを食べたり、イグチを観察したりする。途中でホンドギツネを見掛けた。周りの樹木はシラカバやダケカンバが多い。あまり木の実が落ちておらず、今年の冬は厳しそうだと話を聞いた。コケの多く生えた溪流があり非常にきれいだった。植物や地衣類に興味湧いたのが 8 月中旬であり、全く詳しくないのだが、名前を知りたいと強く思った。ヒュッテに戻り、晩御飯の準備をした。ブリを丸ごと捌くのは初めての経験だった。その後スライドショーなどで付近に生息する動植物についての説明を受けた。
29 日に見た動植物
シラカバ、ダケカンバ、サルナシ、ノハラアザミ、ミズナラ、ウメバチソウ、トチノキ、ハンノキ、ブナ、ヤツデ、ウリハダカエデ、ツタウルシ、ヤマウルシ、イグチ、コオニユリ、シロヤナギ、ヤドリギ、ハリギリ、ハルニレ、リンドウ、ヤマモミジ、ツルマサキ、キンミズヒキ、フキ、コナラ、ホコリタケ、ザトウムシ、マムシグサ、ネマガリタケ、イヌエンジュ、ツルウメモドキ、スズメバチ、ウシ、ヤマブドウ、エドアジサイ、キハダ、ノビル、ワラビ、ミツバアケビ、ワレモコウ、アカマツ、カラマツ、オニユリ、ノシバ、ススキ、エノコロクサ、ソメイヨシノ、ノコンギク、ホンドギツネ、ヒメヤマユガ、ヤドリギ
30 日
朝から、涸沢に登る。ダケカンバが多く生えていたのだが、ダケカンバという名前を覚えるのがなかなか難しかった。涸沢という名前に反し、大雨の影響で水が流れていた。ナナカマドやヤマウルシが紅葉していた。川の途中から見た波状の雲と紅葉仕掛けの山の風景が非常に綺麗だった。野原にはハナワラビが一面に生えていた。午後はテントの使い方やロープワークを学んだ。途中でニホンザルの群れが現れたので

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

彼らを追跡した。計20頭ほどの大きな群れだった。

30日に新たに見た動植物

ニセアカシア、ヤマハハコ、ノコギリソウ、ハウチワカエデ、ナナカマド、ウワミズザクラ、ツルリンドウ、イチヤクソウ、ツバメオモト、ハナワラビ、オウバユリ、マユミ、ハイゴロショウブ、アズキナシ、ツルマサキ、ヨモギ、ヨツバヒヨドリ、ノイバラ、キンミズヒキ、ヒメジオン、コマユミ、オオヨモギ、ニホンザル

1日

火打山登山。道がぬかるんでおり、体力的に厳しかったが、登っていくうちに植生が変わって行くのが印象的だった。途中のヒュッテで、火打山の頂上まで行く組とは分かれ、私は幸島先生と杉山先生とともに辺りの植物観察をした。様々な種類の植物の名前について教わった。夜は星空を眺めた。天の川、オリオン座大星雲やすばるもはっきりと目にすることができた。

1日に新たに見た植物

サンカヨウ、シラタマノキ、クロマメノキ、ゴゼンタチバナ、マイヅルソウ、イワカガミ、アオモリトドマツ、ノウゴウイチゴ、ベニバナイチゴ、アオノツガザクラ、ヨツバムグラ、ミヤマカタバミ、シャクナゲ、チングルマ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ベニバナイチヤクソウ、オトギリソウ、オヤマリンドウ、ツゲ、ヤマナラシ、コシアブラ、ツルニンジン、オオバスノキ、シラネアオイ、カニコウモリ、サラシナショウマ、ナンブアザミ、ヤグルマソウ、エゾアジサイ、エゾリンドウ、ヨツバシオガマ、オオバコ、ギシギシ、ウチワカエデ、オトコエシ、オヤマボクチ、ニワトコ、ヤマザクラ

2日 帰宅。

まとめ

植物により興味を持つことができ、またそのほか登山におけるさまざまなことについて学ぶことができた。野生生物研究における今後の課題はコケを含めより多くの植物や地衣類の名前を覚えることと、散策するだけの体力を身に着けることである。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

6. その他 (特記事項など)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 10 月 4 日	
所属部局・職	農学部 一回生
氏名	井ノ上綾音

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
妙高高原、新潟
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 9 月 30 日 ~ 平成 28 年 10 月 2 日 (3日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ (杉山茂氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習は、1日遅れでの参加だったので、30日に行われたロープワークなどのサバイバル技術の実習には参加せず、10月1日の火打山登山のみの参加となった。30日に登山ルートを確認し、10月1日は、4:30起床で5:30出発し、合計12時間ほどの山行になった。ほとんどの道は平坦で体力的にきつくなるようなルートはなく、登山を楽しむことができた。時折雨が降ることもあったが、帰り道は晴れて、きれいな景色を楽しむことができた。湿原や紅葉が特に素晴らしかった。おいしい具材の入ったおにぎりや、新潟の川の水が美味しかった。私は30日の実習に参加できなかったが、夜はテントを張ってもらって、涼しく快適な笹ヶ峰の夜を楽しむことができた。今回の実習は、学部1回生から博士2年生まで参加していて、実際にフィールドワーク調査している人たちから、彼らの研究やフィールドでの魅力的な話を聞くことができ、とても刺激的だった。

6. その他 (特記事項など)